

第 1 学 年 道 徳 科 学 習 指 導 案

1 年 1 組 指 導 者 森 重 孝 介

主 題 温かい心「はしの上のおおかみ」

1 本主題でめざす子どもの姿について

対象と向き合う子どもの姿【対】	自己と向き合う子どもの姿【自】	他者と向き合う子どもの姿【他】
○親切にかかわる道徳的問題について繰り返し考え、道徳的価値の理解を深めようとしている。	○親切な行為についての今までの自分の経験や考え方を見つめ、これからの自分の生き方について考えている。	○「いじわるで感じるおもしろさ」や「親切な行為で感じる気持ちよさ」にかかわる意見から考えたことについて仲間と交流している。

2 めざす子どもの姿を実現するために

本学級の子どもたちは、怪我をした人を保健室に連れて行ったり、泣いている人に声をかけたりしている。一方、自己中心的な態度をとる子どもたちもいる。このような子どもたちが、今までの自分の親切な行為を見つめ、これからの自分の親切な行為について考える学習に取り組む。このことは、温かい心で接し、親切にしようとする態度を培うことにつながるであろう。

本主題は、内容項目 B 「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」をねらいとしている。温かい心とは、「相手のことを考えたやさしさ」のことである。身近な人と子どもたちが温かい心で接することにより、温かなかわり合いが生み出される。そうしたかわり合いの中で、身近な人の喜びを子どもたちが自分の喜びとして感じるにより、親切な行為に結び付いていくと考えられる。本教材は、「おおかみ」の変容が分かりやすいことや、自分の経験と重なることもあり、子どもたちにとって親切な行為のよさを自覚することができる教材といえる。いじわるで感じたおもしろさと親切な行為で感じた気持ちよさを比べながら、温かい心で接することの難しさと親切な行為のよさについて考えていく。その中で親切な行為で感じた気持ちよさと、自分が親切にしたり親切にされたりしたときの喜びとを関連付けて考えさせたい。そうすることで、子どもたちは親切な行為について自分とのかかわりで考え、温かい心で接し、親切にしようとする態度を培うことにつながると思うからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本主題でめざす子どもの姿の実現を図る。

- いじわるのおもしろさと親切な行為の気持ちよさについて人物の思いを板書上で対比的に表す。そうすることで、親切な行為につながる心の温かさについて考えることができるようにする。【対】
- いじわるのおもしろさを感じた子どもを見取り、「それなら、とうせんぼうもよいことですね。」と問う。そうすることで、「親切な行為をするよさは分かっているが、なかなか実現できない」という思いを仲間と共有し、気持ちよさを感じる親切な行為について考えることができるようにする。【他】
- 「今までの自分」「これからの自分」を観点に振り返りを書くよう促す。そうすることで、親切な行為についての今までの自分の経験や考え方を見つめ、これからの親切な態度について考えることができるようにする。【自】



3 本時における評価の視点

- 温かい心で接することの難しさと親切な行為のよさについて考えている。
- 自分の親切な行為についての経験を見つめたり、これからの親切な態度について考えたりしている。

4 本時案 【平成 30 年 11 月 2 日 9 : 50 ~ 10 : 35 1 年 1 組教室】

- (1) ねらい いじわるで感じるおもしろさと、親切な行為で感じる気持ちよさを比較することをとおして、親切な行為のよさに気づき、温かい心で接し、親切にしようとする態度を培う。

(2) 学習過程 ※下線は3つの向き合う姿が表れている子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
<p>1 2つの「えへん、へん。」に込められた思いを発表する。(20分)</p> <p>【「えへん、へん。」を言ったおおかみの気持ちを考えよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじわるで感じるおもしろさ ・親切な行為で感じる気持ちよさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は親切について考えるのだね。 ・「はしの上のおおかみ」を読むのだよ。 ・おおかみは、いじわるだね。うさぎやたぬきたちがかわいそう。 A でも、くまはとても親切だよ。すごいな。 ・おおかみがとても親切になったね。 ・どうして親切になったのかな。  <ul style="list-style-type: none"> B 1回目の「えへん、へん。」は、「俺の言うことを聞くからおもしろいな。」だよ。 A 2回目の「えへん、へん。」は、「うさぎが喜んでくれて嬉しいな。」だね。 ・こんなにも違うのは、くまのおかげだね。 	<p>○いじわるのおもしろさと親切な行為の気持ちよさについて人物の思いを板書上で対比的に表すことで、親切な行為につながる心の温かさについて考えることができるようにする。</p> <p>【対】</p> <p>○「それなら、とうせんぼうもよいことですね。」と問うことで、「親切な行為をするよさは分っているが、なかなか実現できない」という思いを仲間と共有し、より大きな気持ちよさを感じる親切な行為について考えることができるようにする。【他】</p> <p>○「今までの自分」「これからの自分」観点に振り返りを書くよう促すことで、親切な行為についての今までの自分の経験や考え方を見つめ、これからの親切な態度について考えることができるようにする。【自】</p>
<p>どうして1つ目の「えへん、へん。」はおもしろいのかな。</p>		
<p>2 いじわると親切の違いを話し合う。(20分)</p> <p>【「それなら、とうせんぼうもよいことですね。」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切な行為のよさ ・温かい心 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじわるはよくないことだけれど、楽しくなるときがあるよね。 B 僕も楽しんでとうせんぼうをしたことがあるからおおかみの気持ちが分かるよ。  <ul style="list-style-type: none"> ・だめだよ。分からないけれどだめだ。【他】 ・おおかみはおもしろいかもしれないけれど、うさぎたちが悲しいよ。 ・いじわるは、自分だけの楽しさだね。 A どちらも楽しい気持ちがあるかもしれないけれど、親切にした方が心が温くなるよ。 	<p>【対】</p> <p>○「今までの自分」「これからの自分」観点に振り返りを書くよう促すことで、親切な行為についての今までの自分の経験や考え方を見つめ、これからの親切な態度について考えることができるようにする。【自】</p>
<p>3 親切な行為について振り返る。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの自分 ・今までの自分 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切にするとみんなが嬉しくなるね。 ・くまのおかげで気付いたから、おおかみは変わったのだね。 B どちらも嬉しくなる親切をしたいな。【自】 ・今まで僕は親切にできていたかなあ。 ・そうだ。今度、星組さんと遊ぶよね。私達も星組さんも嬉しくなる親切をしようよ。 	<p>【対】</p> <p>○「今までの自分」「これからの自分」観点に振り返りを書くよう促すことで、親切な行為についての今までの自分の経験や考え方を見つめ、これからの親切な態度について考えることができるようにする。【自】</p>

(3) 板書計画

